

◇ あさひのプロジェクト（総合的な学習の時間）の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、デザイン思考の過程の中で自分のできる実践を繰り返し行うことを通して、自分の考えを広げ深めながら課題を解決し、実生活・実社会における自分の可能性や価値を認識し、社会に生かそうとする意欲を高める。

ア日常生活や社会に目を向けて、そこから湧き上がってくる疑問や関心に基づいて自ら課題を見つけ、探究のプロセスを繰り返しながら豊かに学んでいる。

イ課題に対して、多様な角度から俯瞰して捉えながら、自らの知識や技能等を総合的に働かせて、目前の具体的な課題に粘り強く対処し、解決しようとする。

ウ探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら自己の生き方を考え、積極的に社会参画しようとする。

◇ あさひのプロジェクトにおける新たな価値を創造できる資質・能力の捉え

ア 問題発見・解決能力	イ 批判的思考力	ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力
日常生活や社会に目を向けて、そこから湧き上がってくる疑問や関心に基づいて自ら課題を見つけ、探究のプロセスを繰り返しながら豊かに学習すること	課題に対して、多様な角度から俯瞰して捉えながら、自らの知識や技能等を総合的に働かせて、目前の具体的な課題に粘り強く対処し、解決しようとする	探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら自己の生き方を考え、積極的に社会参画しようとする

1 単元名・学年「これからの社会を生きる私（第2期）」・3年

2 単元のねらい

「社会貢献」に向けて、自分のやりたいことと、自分自身の特徴を基に決めた追究テーマを、地域や企業の方と関わりながら計画・実践していく探究的な学習を通して、自己の生き方に対する考えを深めていくには、他者や社会との関わりが必要であることを理解し、実践から得たことを自己の生き方と関わらせて考えるとともに、自己の将来を切り拓いていこうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 自己の生き方に対する考えを深めていくには、他者や社会との関わりが必要であることを理解している。</p> <p>技 実践に関する調査を、適切な方法で実施している。</p>	<p>思 これまでの学習や自分自身の特徴</p> <p>① 徹、実践に関わる調査活動などで収集した情報を基に、実践計画を立てている。</p> <p>思 計画したことを実践するために</p> <p>② 必要な情報を収集し、必要な期間などを見通して実践しようとしている。</p> <p>思 実践の検証をして、実践までの</p> <p>③ 過程を見直したり、実践について振り返ったりしながら、課題の解決に向けて考えている。</p>	<p>態 自分で設定した課題の解決</p> <p>① に向けて、見通しをもって取り組もうとしている。</p> <p>態 課題の解決に向けて、他者の</p> <p>② の意見や考えを尊重しながら、協働して取り組もうとしている。</p> <p>態 自己の将来に向けて、目指</p> <p>③ す生き方を明確にしている。</p>

※新たな価値を創造できる資質・能力の評価は、上記の評価規準を関わらせて行う。

4 単元展開（全 50 時間扱い、本時は第 41 時）

段階	学習活動	時間
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・あさひのプロジェクトのガイダンスを聞き、活動のイメージをもつ。 ・2 学年の社会体験活動を振り返り、自分の過去（学んだこと）、現在（自身の特徴）、未来（15年後の社会）について、Yチャートを用いて分析し、大切にしたい生き方・考え方を再考するとともに、個人の追究テーマを決め出す。 ・若狭高等学校海洋科学科の探究活動「サバ缶を宇宙食にしよう」の動画を視聴し、自分のできる探究活動を通して地域に貢献することのイメージをもつ。 ・STEAM ライブラリー「デザイン思考」の動画を視聴し、ニーズ調査と課題解決へのアプローチについて再確認する。 ・Yチャートに書き出したシーズ（自分の特徴）を基に、機械的に集められた複数人のシーズをかけ合わせるとどのような活動が考えられるか、話し合う場を設け、活動のイメージを膨らませる。メンバーを変えて、話し合いを2回行う中で、自分の解決してみたいニーズ（社会課題）へのアプローチを具体化していく（図1）。 	1 5 6
	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的にやってみたい活動を提案する人（提案者）を募り、学年内で構想発表会（ポスターセッション形式）を行い、どのような活動目的でチーム発足を考えているのか、具体的にどのような活動を見据え、どのような人材を必要としているのか、情報交換を行う（図2）。 ・構想発表会を行うと同時に、企業からのミッション*も示し、興味がある生徒へは職員から概要を説明する。 <p>*ミッションに関しては、職員が事前に企業と打ち合わせを行った上で、生徒に紹介する。</p>	7 8 9
展開	<p><ここまでは学年共通の活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案者の活動（プロジェクト型）と企業からのミッションの一覧を基に、探究チームを選択し、集まったメンバーで活動提案について検討する。 ・メンバーのシーズについて共有し、どのようなニーズが想定され、シーズをどのように生かすことができそうか検討する。 	10 13
開	<p><ここからチーム毎の探究活動></p> <p>《プロジェクト型》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案書の活動目的や対象についてどこで、どのように確認すればよいのか検討する。 ・生徒が検討した協力してほしい地域、企業、学校などへ生徒自身が連絡を取り、相談や日程調整を行う（図3）。 ・地域や企業に出向き、自分たちの活動目的について、社会的なニーズと合致するのか確認したり、問題の当事者に話を聞いたりして情報を収集する（図4）。 	14 17



図1 話し合いの様子



図2 構想発表会の様子



図3 企業と日程調整を行っている様子



図4 企業に出向き情報収集をしている様子

《ミッション型》

- ・企業の方と顔合わせを行い企業側の活動提案について確認すると共に、提案の内容について自分たちにできることを検討する（図5）。
- ・企業の方に情報を提供してもらい、デザイン思考を用いることで、課題解決に向けて、潜在的なニーズがどこにあるのか検討し、その調査方法について検討する。



図5 企業との打ち合わせの様子

- ・これまでの情報を整理し、解決したい問題の決め出しを行う。また、具体的な解決策を考える上でさらに必要な情報がないか確認する。
- ・今後の活動に向けて、学校での活動、実地調査や企業訪問の行動細案計画などを含めた計画書を作成する。

18
）
22

【H・W（ヒューマンウィーク：全校で、4日間の授業すべてを総合的な学習の時間として集中的に確保する、本校独自の特別日課）】

- ・調査活動で見えてきた社会的なニーズ、定義された問題解決に必要な要素と、チームの個々がもつシーズを整理し、具体的な解決策を決め出す。



図6 校外活動（左）や実践に向けた準備（右）の様子

- ・必要に応じて再度地域や企業に出向き、必要な情報を収集したり、活動に向けての打ち合わせを行ったりする（図6）。

- ・成果発表会①に向けて、これまでの活動と今後の展望をスライドにまとめる。
- ・企業訪問や実地調査を行い、実社会の諸課題に悩む現状や、それらの課題に対応する方法の具体例を学び、問題解決に必要な情報を収集する。
- ・H・Wでの調査結果をまとめ、成果発表会①の資料を作成する。

23
）
32

【成果発表会①（あさひのプロジェクトの取組を全校生徒や保護者に発表する機会）】

- ・1、2年生や保護者に向けて、活動開始から2か月間の学びを説明する（図7）。
- ・活動目的や今後の活動を含めた見通しに関して、客観的な意見を募る。
- ・収集した意見や情報を基に、目的を再確認し、次の活動に向けての計画を練り直す。



図7 成果発表会①の様子

33

- ・解決策の実践に向けて、問題解決の仮説を立案し、検証方法を含めた計画書や作品の設計図等を試作する。
- ・学年内実践報告会に向けて、実生活・実社会の諸課題に対して、現時点で最善の解決策を実践し、結果を検証する（図8）。
- ・これまでの活動についてポスターにまとめ、学年内実践報告会の準備を行う。



図8 実践の様子

※各チームの進捗状況に応じて内容が異なる。

展
開

《プロジェクト型》例：城山動物園チーム

- ・城山動物園とその周辺の活性化を目指し、SNSやデザインが得意であるというメンバーのシーズを生かして、中学生主体のフォトコンテストを企画する。
- ・城山動物園の職員と打ち合わせを行い、どれくらいの期間で応募写真を募るべきか、また、どのような層をターゲット層として活動するとよいか、アドバイスをもらう。
- ・中高生までの層を対象としたフォトコンテストを開催するにあたり、どのようなことを行うと、ターゲットとしている層に応募してもらえるか考える。
- ・応募広告用ポスター作成に加えて、学校公式SNSを活用し、よりターゲット層に届くような広報を行う（図9）。
- ・ニホンザルの餌やり体験を参加賞として用意したり、コンテスト上位入賞者には、城山動物園オリジナル商品を用意したりするなどして、よりターゲット層を絞った活動となるようにしていく。
- ・応募後の投票について、城山動物園内に、投票所を設けると同時に、Google フォームを活用した投票方法も同時に取り入れ、より多くの方の目に触れるようなコンテストを企画する（図10）。
- ・応募された写真を城山動物園に掲示して、投票所を開設するとともに、SNSで投票用Google フォームについて広報する。
- ・参加賞の引換券を作成し、参加者へ事前送付を行う。
- ・結果発表日に向けて、城山動物園の職員と打ち合わせを行い、看板の設置を行ったり、発表場所や発表方法について検討したりする。
- ・投票結果を集計し、城山動物園で結果発表を行う（図11）。
- ・城山動物園の職員も交えて、今回の活動について振り返る場を設ける。
- ・これまでの活動についてポスターにまとめ、学年内実践報告会の準備を行う。



図9 SNSによる発信



図10 投票所の様子



図11 結果発表の様子

展
開

34
)

【学年内実践報告会】

- ・自分たちの行ってきた学習について友と意見交換し、これまでの活動や取組を客観的に判断することを通して、情報を収集したり、試行したりする場を設ける（図12）。その際、今後の活動に向けて、客観的な視点から自分たちの活動を見られるように、あらかじめ意見をいただきたい視点を決めておく。



図12 学年内実践報告会の様子

41
(本時)

- ・学年内実践報告会で得た意見を基に、活動の集大成として、自分たちが立てた解決したい問題に対して、現時点で最善の解決策を実践し、結果を検証する。
- ・城山動物園の職員と検証結果を共有して活動を振り返り、自分たちの活動の評価を行う。
- ・これまでの活動をまとめ、伝えるべき内容を精査し、「成果報告書」の作成と成果発表会②に向けた準備を行う。

42
)
48

終
末

【成果発表会②】

- ・1、2年生や保護者、企業の方に向けて、活動開始からこれまでの学び（行ったこと、手応え、やりがい、思い知らされた現実等）、活動の評価、今後の展望を説明する。

49
・
50